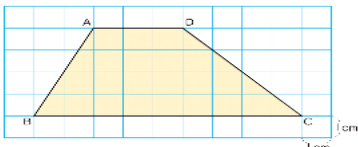
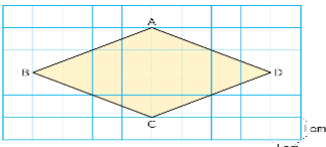






第5学年1組 算数科「図形の面積」

段階	学習活動・予想される児童の反応	本時見られた深く学び続ける子どもの姿
導入	<p>1 面積レポートを振り返り、本時のめあてを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 面積の求め方の手順を確認する。(レポートのまとめ方) ・知っている図形に直す。(分割・等積変形・倍積変形) ・求積に必要な辺に、青線・赤線で色付けする。 ・計算して面積を求める <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>	<p>○ 前時のログを振り返ることで、本時の学習活動を明確に、積極的に取り組もうとする姿が見られた。</p> <p>○ 平行四辺形・三角形で行った活動を振り返ることで、台形・ひし形のどちらが既習の形になおしやすいのかを想起し、理由を発言して、自分でめあてをたてる姿が見られた。</p>
<p>台形、ひし形を選んで、面積の求め方をレポートにまとめよう。</p>		
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>2 台形、ひし形を選択し、面積の求め方を考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>根拠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動かして平行四辺形になりそうだ！ </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 30%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・分割して三角形が2つになりそう！ </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%; text-align: center;"> <p>内容</p> <p>台形の面積の求め方</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%; text-align: center;"> <p>ひし形の面積の求め方</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>方法</p> <p>分割 ・対角線で2つの三角形に！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>等積変形 ・分けて動かして、知っている図形に</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>倍積変形 ・図形を2つ組み合わせ合わせて知っている図形に</p> </div> </div> <p>【個別と協働の一体的充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別で台形を倍積で求積し、同じ台形同士で交流する。 ・方法を交流し、個別で求積する </div>	<p>○ 台形・ひし形の内容選択の場を設定することで、「この図形なら既習の形にして面積を求めることができそう」といった、自ら問題解決をする姿が見られた。</p> <p>○ どのように問題解決をするのか【まずは自分で(資料1)・同じ選択の人(資料2)・同じ選択で違う方法の人(資料3)】を自由に選択できるようにしたことで、既習の図形に直して面積を求めようとするような自分の課題を解決するために取り組む姿が見られた。また、面積を求めた後に本当にこの図形を変形すると既習の図形になるのかを確かめるために、実際に紙で切ってみる方法を行い、学びの確かめを自らする姿が見られた。(資料4)</p>
終末	<p>3 求積してきた経過を交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台形は2つ合わせたらできた。 ・ひし形を対角線で分けたらできた。 <p>4 本時学びを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 求積過程をレポートで振り返り、まとめる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・本時できるようになったこと…台形(ひし形)の面積を、知っている平行四辺形(長方形)に直して、必要な辺に色付けて、計算で面積を求めることができた。 ・次時やりたいことは、台形(ひし形)の面積を求めたので、続けてひし形(台形)を求め、友達にも求め方を説明したい。 </div>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>①</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>②</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>③</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>④</p> </div> </div> <p>○ 途中経過を全体で交流する活動を行うことで、求積の過程を確かめたり、次の時間にする図形のヒントを見出したりする姿が見られた。</p>

- 平行四辺形・三角形・台形・ひし形の面積を求めることができるようになるとうとシンプルな見通しを子どもたちがもったことで自己解決をしようとする姿が見られた。そのためには、単元前半に行う一斉授業がとても重要になってくる。既習の図形に変形する方法がそれぞれ違って最後は公式に繋がる、だから公式は効率的であるといった単元の出口が分かりやすいのも自己選択・決定が有効な一つの要因であると感じた。
 - △ 図形の変形にはICTを用いて行ったが、都合よく変形できるため具体物を実際に切る活動を入れることでさらに身近に実感できるのかなと感じた。
- 内容の選択の為、評価の見取りがやりづらく、進行状況がバラバラになる可能性もある。